

技術検討作業班の開催について

1 開催の目的

LTE や WiMAX 等のモバイルブロードバンドやスマートフォンの急速な普及により、通信トラフィックの爆発的な増加や通信サービスの利用形態の多様化等、携帯電話を取り巻く環境が大きく変化している。

このため、①電波の有効利用の促進やネットワーク設備のスリム化・低廉化等を図る観点から、LTE 上で音声電話を実現する VoLTE (Voice over LTE) の導入、②携帯端末の利便性向上や通信トラフィックの固定網へのオフロード等を図る観点から、ソフトウェアダウンロードにより 080/090 や 0AB～J の番号を用いた IP 電話を様々な端末で実現するソフトウェアフォン（ソフトフォン）の利用拡大が期待されている。

今後、このような新たな IP 携帯電話サービスの導入を推進し、本分野での我が国の技術競争力を強化するために、国際標準化動向等を踏まえつつ、電気通信回線設備の機能に障害を与えない等の観点から、適切な技術的条件を早急に整備しておく必要がある。

こうした状況を踏まえ、下記の項目について検討を行う。

2 主な検討項目

- LTE 上での IP 音声電話サービス（VoLTE：Voice over LTE）等に関する技術基準（端末設備等規則、事業用電気通信設備規則等）の検討
- 080/090 や 0AB～J の電話番号を用いたソフトウェアフォンに関する技術基準の認証の在り方に関する検討

3 本作業班の主任及び構成員

別紙のとおり。

4 作業スケジュール

平成 24 年 7 月を目処に作業班で一定の取りまとめを行う予定。

技術検討作業班 構成員一覧 (案)

(敬称略)

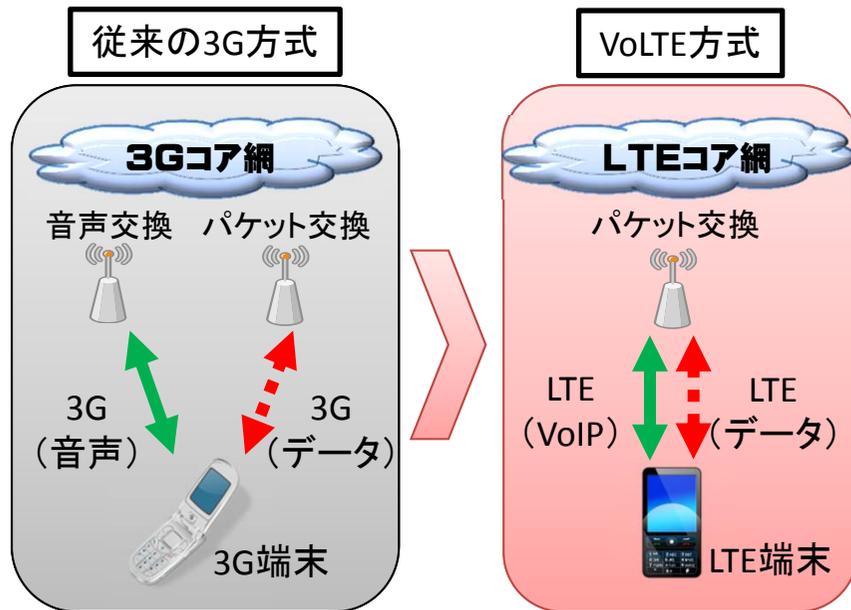
氏名	役職
柿坂 寛明	(株) コスモス・コーポレーション 端末機器認定課
河合 浩	Wireless City Planning (株) 技術開発部 部長
河村 政志	UQコミュニケーションズ (株) 技術部門 技術企画部 部長
木原 賢一	ソフトバンクモバイル (株) モバイルネットワーク本部 無線技術開発部 調査研究課 担当課長
木村 孝	(社) 日本インターネットプロバイダー協会 会長補佐
楠 正憲	日本マイクロソフト (株) 技術標準部 部長
佐田 昌博	(株) ウィルコム 技術企画部 部長
佐藤 和紀	(株) ソフトフロント 取締役
佐藤 隆明	(株) エヌ・ティ・ティ・ドコモ 研究開発推進部 技術戦略担当部長
菅波 一成	イー・アクセス (株) 技術本部 技術企画部 担当部長
平 和昌	(独) 情報通信研究機構 社会還元促進部門 部門長
高澤 和充	西日本電信電話 (株) 技術革新部 技術部門 部門長
千葉 貢	東日本電信電話 (株) ITイノベーション部 技術部門 部門長
千村 保文	沖電気工業 (株) 研究開発センタ ビジネスイノベーション推進部 エグゼクティブ・スペシャリスト
富樫 浩行	(株) ディーエスピーリサーチ 技術開発部 部長
中西 廉	(一社) 情報通信ネットワーク産業協会 IP 端末課題検討WG 主査
中野 吉孝	(社) 日本CATV技術協会 規格標準化委員会
永見 健一	(一社) テレコムサービス協会 政策委員会 副委員長
橋本 幸雄	(財) 電気通信端末機器審査協会 機器審査部 主幹
古谷 之綱	東京工業大学 特任教授/電気通信大学 客員教授
松石 順應	KDDI (株) 技術企画本部 モバイル技術企画部 企画グループリーダー
室井 保彦	(一社) 情報通信ネットワーク産業協会 適合性評価委員会 委員
森川 誠一	シスコシステムズ (同) ジャパン テクノロジー&リサーチセンター コンサルティングエンジニア
森川 博之	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
矢橋 康雄	(社) 電気通信事業者協会 業務部長
山口五十三	テュフ・ラインランド・ジャパン (株) 製品部電気製品課通信機器ラボラトリー シニアプロジェクトエンジニア

技術検討作業班の検討事項（案）

- ① 電波の有効利用やネットワーク設備のスリム化・低廉化等の促進の観点から、VoLTE（Voice Over LTE）等の新たなIP移動電話サービスに関する技術基準（端末設備等規則、事業用電気通信設備規則、端末機器の技術基準適合認定等に関する規則等）の検討
- ② 携帯端末の利便性向上や通信トラフィックのオフロード等の促進の観点から、ソフトウェアダウンロードにより080/090 や0AB～JのIP電話を様々な端末で実現するようなソフトウェアフォンに関する技術基準の認証の在り方に関する検討

1 IP移動電話に関する技術基準の検討

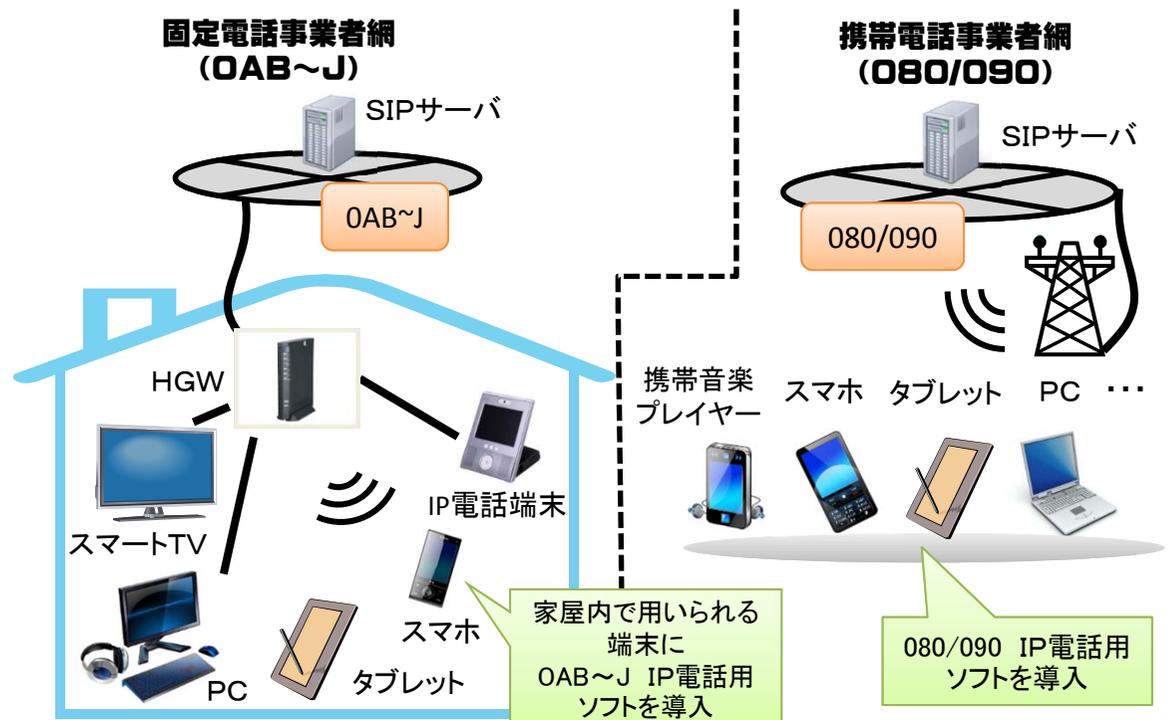
VoLTEのイメージ



VoLTEの導入により、端末からのエンド・ツー・エンドのフルIP化が進展するとともに、ネットワーク設備のスリム化・低廉化が可能。

2 ソフトウェアフォンに関する認定等の在り方の検討

ソフトウェアフォンの利用イメージ



ソフトウェアフォンの利用拡大に伴い、移动通信トラフィックの固定通信網等へのオフロードが一層促進されることが期待。